



医療経営士ニュース | これからの医療現場を担う経営人材のための機関紙

MMS NEWS

2023 2 月号
Vol.144
毎月1回発行(通巻144号)
編集:日本医療企画

一般社団法人日本医療経営実践協会 〒104-0032 東京都中央区八丁堀三丁目20番5号 S-GATE八丁堀9F TEL.03-3553-2906 http://www.JMMPA.jp/

令和5年新春特別講演会

看護師で僧侶の玉置妙憂氏が講演 スピリチュアルケアの神髄を説く

一般社団法人日本医療経営実践協会は、2月1日(水)より令和5年新春特別講演会「医療・福祉の人間力―スピリチュアルケアとは?」の配信をスタートした。講師を務めるのは看護師で僧侶の非営利一般社団法人大慈学苑代表・玉置妙憂氏。本講演は2月28日(火)まで会員限定で配信 중이다。

スピリチュアルペインを癒すために必要なケアとは

玉置氏は冒頭、「スピリチュアルペイン」ははっきりとした医療用語であり、普段潜在意識に押し込めて見ないようになっている、もう味わいたくない痛みのことと定義。それが自分や大切な人の生命の限りや、多数の生命が奪われる不条理を認識したときに蓋が開いて出てきてしまうと解説した。そのスピリチュアルペインをケアすることがスピリチュアルケアであり、本人が蓄積している物語を書き換えるお手伝いであると話す玉置氏。「自分で作った物語を書き換えることは自分自身でなければできない。そのプロセスをサポート

トすることがスピリチュアルケアである」と述べ、その方法は「聴く」ことであると説いた。

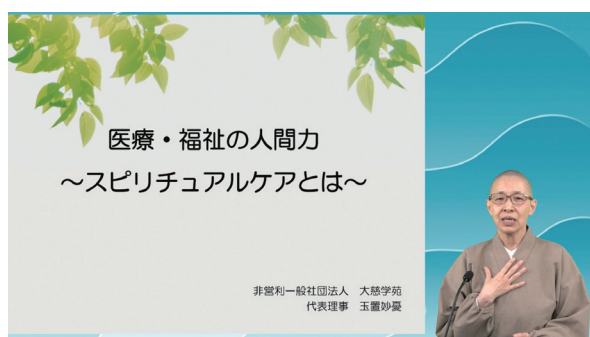
ただし、スピリチュアルケアを行おうとすると普段とは違うエンジンを使うため疲弊してしまうと玉置氏は指摘。「一般に社会人としてあるためのエンジンのバランスは、サイエンスがまずあって経験値があり、ちょっとだけ感性が入る。しかしスピリチュアルケアにおいては、科学も経験値も捨ててはダメだが感性が非常に重要」とし、感性を育てることの大切さを強調。そのためには身口意(知る、語る、考える)を整えることが必要と述べ、それが死生観を育てることになると解説した。

自利があつてこそその利他 自分自身の安定を大切に

続いて玉置氏は「少し楽になるかもしれないご提案」として4つの項目を伝授。1つ目は「思考の鎖を断ち切る」として、次々悪いことを連想してしまうようなときには、身体を動かして一回別の方向に頭を持っていくことが有効と話した。2つ目は「言葉をメンテナンスすること。人は自分の言葉によって自分を作っていると説き、「どうせダメだ」などの言葉を使わないことの大切さを伝えた。3つ目は「この世は諸行無常と知る」ことで、あらゆるものは同じ状況であり続けることはないとし、最悪な状況でも必ず変わっていくと知ってほしいと強調。4つ目として「執着を捨てる」を挙げ、煮詰まってきたときこそ「こうでなければならぬ」というフレームを捨てるのが大事だと述べた。

玉置氏は最後に「自利と

利他」について解説。「お釈迦様は『利他業に励め』と言っているが、実は『自利を持って利他をなせ』であり、まずは自利を満たすことが先決。自分を満たすことを後回しにしてしまいがちだが、自利が先であることを知ることが大切だ」とし、「自利が満たされていれば必ず自分が安定するし、周りも安定してくる。スピリチュアルケアをしようという方は自利が満たされて初めて実行できる」とメッセージを送った。



一般社団法人日本医療経営実践協会 主催
令和5年新春特別講演会
医療・福祉の人間力
—スピリチュアルケアとは?—



絶賛
配信中!
講師 玉置妙憂 先生
参加費 医療経営士(会員)……無料

2023 | 2 | 1水
~ 2 | 28火

WEBオンデマンド配信

たまおき・みょうゆう ●看護師・僧侶・スピリチュアルケア師・ケアマネジャー・看護教員。東京都中野区生まれ。専修大学法学部卒業。その後、看護師、看護教員の免許を取得。夫の「自然死」という死にざまがあまりに美しかったことから開眼し出家。高野山にて修業をつみ高野山真言宗僧侶となる。現在は、現役の看護師としてクリニックに勤めるかわら、院外では、非営利一般社団法人大慈学苑代表として活動している。

医療経営士の皆様には視聴用アドレスを送付します

給食部門のコストを見直し 管理栄養士を病棟へ!



物価や光熱費が高騰するなかで、医療機関で給食部門の経営が厳しいという声が少なくない。3月27日(月)に開催するセミナー「給食部門の経営管理」の講師を務める宮澤靖氏(日本栄養経営実践協会代表理事/東京医科大学病院栄養管理科科长)に、お話を伺った。

「栄養はコスト部門」の認識を改めよう

管理栄養士が関連する診療報酬は、患者とコンタクトしないとい課金されない仕組みになっていきます。給食の献立を管理栄養士が作っても、クオリティは別ですが加算がつくわけではありませぬ。その状況で給食の運営・管理に何人も管理栄養士を配置しているのだから、その認識が経営側も管理栄養士側も不足しているのではないのでしょうか。

「管理栄養士は厨房で頑張って美味しいものを出せばいい」と経営側が考えていると管理栄養士を厨房にばかりつけることになり、コストだけが出ていくことになりませぬ。そういった意識を変えることが重要です。

病院の栄養部門の役割としては臨床と給食があり、そのバランスをどう考えるかはそれぞれの施設の価値観によると思いますが、臨床現場で栄養の専門家である管理栄養士の代わりができる担い手はいませぬ。22年度改定で特定機能病院を対象に新設された入院栄養管理体制加算は入院初日と退院時に270点が算定されますが、病棟に専従の常勤管理栄養士の配置が要件

となつていきます。管理栄養士を病棟に置いて加算を取りに行くには、限られた人数をどう配置するのかという経営判断が必要です。

いくら栄養部門が「やりたい」と言っても、組織を変えていくのは難しいでしょう。病院の経営理念や方針として「管理栄養士も病棟に出ろ!」という方向性を示していただいたうえで、その方針に則って栄養部門も動いていく、という形で進めていかないと、栄養部門単独ではなかなか現状の問題点は解決しないのではないかと考えています。

給食の役割を見直し コストの捉え方を再考する

病院のなかにはいろいろなサービス部門があつて、快適な療養環境のためのサービスがそれぞれあります。そのなかでも食事は大きなウエイトになってきます。食事のクオリティを上げることで患者サービスの質の向上につながり、患者満足度が上がるのであれば、そこにコストをかけるという考え方は当然あつてよいと思つています。

患者さんに聴くと、「入院のときに唯一の楽しみは食事」と言う声はやはり多いです。同じ金額を支払うのであれば、良い食事が食べられるほうがよいのは当然です。これまでは「良い医師がいる」「家から近い」といったことで病院を選んでいたかもしれないですが、これからは「良い食事が食べられる」「あそここの病院のご飯は美味しい」という理由で病院を選ぶということも出てくるでしょう。

病院給食のクオリティの高さが患者満足度の向上につながり、ブランディングにも有効ということであれば、そこをきちんと評価する必要があります。食事にかかるコストを1食640円という枠の中だけで捉えるべきなのか、医療経営士の皆さまには改めて考えていただきたいと思つています。

【 病院給食部門の危機を乗り越えるための緊急セミナー 】 さらなる物価高騰で食材費はどうなる? 知っておくべき給食部門の経営管理

- 日時：2023年3月27日(月) 15:00~16:00
- 形式：オンラインセミナー(ウェビナーを使用)
- 講師：宮澤靖氏(東京医科大学病院栄養管理科科长、日本栄養経営実践協会代表理事)
- 対象：医療機関経営者・事務部門責任者、事務部門スタッフ・栄養部門スタッフ
- 費用：医療経営士2,000円/一般3,000円
- 定員：100名
- 主催：日本医療経営実践協会



九州支部南九州支局で勉強会開催
“大惑星直列”への準備を急げ

日本医療経営実践協会九州支部の医療経営士南九州支局は2月9日、ハイブリッドで研修会を開催、会場とオンラインで約180名が参加した。

主催は医療法人玉昌会。冒頭、挨拶に立った玉昌会グループ代表の高田昌実氏は、昨今の戦争や天災等にふれながら「2024年には“大惑星直列”とも言われる大きな変革があるなかで、次年度が業界の正念場。そのための準備に向け、ヒントを見つけ、実のあるものになるよう勉強していただきたい」と想いを述べた。

1つ目の演題は玉昌会法人事務局事務局長の島田親房氏による「組織運営に必要な外部環境の総括と生き残り戦略・データを経営に活かす」。島田氏は医療界においては2040年までの道筋がすでに示されているとしたうえで、人口減少問題、社会保障、医療政策、診療報酬改定等の外部環境について解説。同法人が展開してきた「キラメキテラス計画」「JOYタウン計画」を紹介しながら「これからの病院は地域と共に



会場とオンラインで約180名が参加した

共存共栄していくことが欠かせない」と強調した。

続いて加治木温泉病院院長の夏越祥次氏が登壇し、「多様な医療体制と高度急性期から慢性期までの経験から」と題して講演。前職である鹿児島大学病院院長時代に取り組んだ病院改革の手法を解説したうえで、慢性期であっても医療者としてのマインドは同じとし、SWOT分析等を通じた実態把握やデータの可視化、目標達成までのミッションシート作成等の取り組みを紹介。最後に夏越氏は人口減少や制度見直し、自然災害等の様々な要素を踏まえて「医療経営士の皆さまにはしっかりと情報収集を行い、病院に提供する役割がある」と期待を述べた。

事務局掲示板

会報誌『理論と実践』投稿募集中 自分の声を会員に届けよう！

当協会が発行している会報誌『理論と実践』では、会員の皆様からの投稿を募集しています。日頃の職務における疑問や悩みから、業務改善へ向けたアイデア、病院経営や医療政策・制度に関する論文や問題提起等、内容は自由です。採用原稿については薄謝を進呈いたします。お気軽にご投稿ください。

【お問い合わせ】

日本医療経営実践協会事務局
03-3553-2906 info@jmmpa.jp

医療経営士の皆様へ 所属先の掲載ご協力のお願い

本協会のホームページでは、会員の皆様から掲載の同意をいただいて、医療経営士が所属する医療機関・企業名を公開しています。

医療機関の抱えるさまざまな経営課題を迅速かつ的確に解決できる能力を持った医療経営士の所属先を公開することで、経営力を持った医療機関であること、医療機関のマネジメントを支援できる人材を有する企業であることをアピールすることができます。掲載の同意をいただける方は、下記URLからご登録ください。

【ご登録はこちらから】

<http://www.jmmpa.jp/support/cat108>

PICK UP 研究会

九州支部

第8回沖縄県自主勉強会

今回で8回目を迎える沖縄県自主勉強会。那覇市立病院人事課長・教育研修グループ長黒崎浩史氏による「FOCUS人事業務～働き方改革だけじゃない人事のおしごと～」、敬愛会中頭病院臨床教育開発センター主任の岡大樹氏による「臨床研修部について～初期研修医へのサポートとこれからのに向けて～」の2つの発表に加え、特別発表として常翔学園広島国際大学3年生の奥間さくら氏による「医療経営の学び～それは人と向き合うこと～」が行われる。

- 日時
2023年3月17日(金)18:00～19:30
- 参加費
無料
- 会場
オンライン(Zoom)
- 主催
日本医療経営実践協会九州支部
沖縄県自主勉強会
- お問い合わせ先
日本医療経営実践協会九州支部 担当:杉安
092-418-2828/n-sugiyasu@jmp.co.jp

関西支部

第31回関西医療経営勉強会

「松下記念病院院長時代の足跡と医療におけるホスピタリティの意義」

今回の関西医療経営勉強会は、パナソニック健康保険組合松下記念病院名誉院長の山根哲郎氏が登壇する。松下記念病院の院長時代に取り組んできた実践事例について解説いただくほか、山根氏が常に念頭に置いてきた「医療におけるホスピタリティ」について講演いただく。

- 日時
2023年3月25日(土)14:00～15:30
- 参加費
無料
- 講師
山根哲郎氏(パナソニック健康保険組合松下記念病院名誉院長)
- お問い合わせ先
社会医療法人甲友会西宮協立脳神経外科病院安全管理室
担当:前田哲 maeda.s@nk-hospital.or.jp

INFORMATION



日本ヘルスケア経営学院 新講座開講 「医療現場のコミュニケーション&ハラスメント対応スキルアップ研修」

各10分のショート動画による構成
多忙な医療職でもスキマ時間で学習可能
新時代の接遇研修講座がスタート!

ヘルスケア分野の経営人材を養成・育成する日本ヘルスケア経営学院では、2022年12月より新たなラインナップとして「医療現場のコミュニケーション&ハラスメント対応スキルアップ研修 WEB講座」を開講した。

近年、医療現場でもクローズアップされる「ハラスメント」の問題。医師一患者間だけでなく、看護師や事務職員と患者間、そして医療職同士でもさまざま

なコミュニケーションエラーが生じ、ハラスメントにつながる可能性がある。

同講座では、そもそもハラスメントはなぜ起こるのか、对患者、医療スタッフ間のトラブルを防ぐためにはどうすればよいかについて、実践的な対処法を解説している。

講師には医療機関における接遇研修等の経験も豊富な株式会社メディカルクリエイト・多摩大学大学院客員教授の石井富美氏を迎え、1本約10分の動画5本で構成。研修の時間を取るのが難しいメディカルスタッフが短時間で学ぶことができるようになっている。

■ 講義内容(各動画とも約10分)

- ①ブランディングの鏡
現場は常に1対1「真実の瞬間」の判断は個人/NPSは顧客ロイヤリティを定量的に測る指標/患者さんの反応は自分たちの行動を映す鏡 ほか
- ②医療現場のトラブル対応
職場内コミュニケーションの課題/コンフリクトはフレームの違いが招く理解の違いで生まれる ほか
- ③医療現場のハラスメントの仕組みと対処法
ハラスメントは行う方の意識の有無に関係ない/「患者の権利と責務」とハラスメント/誰でもハラスメントの加害者になるリスクがある ほか
- ④コミュニケーションスタイルを知ろう
職場の4つのコミュニケーション形態/自己表現のタイプを知ろう/メッセージの伝え方、言葉の選び方 ほか
- ⑤コミュニケーションスキルアップ
チームのコミュニケーションカアップは医療安全を推進する活動につながる/コミュニケーションスキルによる医療安全推進策Team STEPPS ほか

■ 概要

- ▶ 受講料(税込): 4,400円
- ▶ 講義時間: 各10分程度(全5本)
- ▶ 受講期間: 20日間
- ▶ 講師: 石井 富美(株式会社メディカルクリエイト・多摩大学大学院客員教授)
- ▶ URL: <https://hcmi-s.net/weblesson-hcm/if-03/>



月刊医療経営士

次代を担う
医療経営人財を
サポートする
「医療経営士応援マガジン」

特集

医療経営士がリードする

「患者」視点の病院づくり

- 医療提供者の視点からの変革にむけたヒントが満載!
- 好評連載「教えて! 医療経営士の育て方」は永生会が登場

詳細・ご購入は
こちら



3月号
好評発売中!!

【お問い合わせ先】株式会社日本医療企画 ☎03-3553-2861 <http://www.jmp.co.jp>



第6回「医療経営に関する研究助成」公募スタート

医療経営士としての活動の成果を
アピールできるチャンスを見逃すな！

今回で6回目となる「医療経営に関する研究助成」の詳細が決定した。懸賞論文「日本医療経営実践賞」最優秀賞の100万円を含め、総額1000万円を上限とする本協会の研究助成事業。ぜひ多くの会員に手を挙げていただきたい。

医療界が直面する課題に
どうする「医療経営士」

第6回（2023年度）の「医療経営に関する研究助成」における指定課題が決定し、2月15日より公募が開始された（表）。

①「医療経営におけるDX」と④「医療改革における医薬品企業、医薬品卸売企業の役割」については、昨年度から引き続きのテーマであり、①については3年連続となる。DXについては昨年末に閣議決定された2023年度予算案でも「医療分野・介護分野におけるDX、医療のサイバーセキュリティ対策の推進に22年度補正予算と合わせて528億円が計上され、診療報酬改定に関してもDXの取組推進が謳われている。医療機関へのサイバー攻撃も相次ぐなか、同分野

における医療経営士の活躍は必須、ぜひ多くのチャレンジを期待したい。

今回新たに設けられた②「医師、看護師等人材の確保対策」と③「人口減少社会における医療機関の経営戦略」については、どちらも「ヒト」に関わるものと

なった。現在進められている働き方改革と併せ、医療機関としてのどのような舵を切っていくのかは大きなテーマと言える。

また、総人口が減少化にある我が国において、高齢者人口も減少に転じる2040年以降は医療機関

の存在意義が厳しく問われる時代となる。そのなかで医療経営士として何ができるのか、新たな時代を見据えた一歩を踏み出す契機に本事業を活用いただきたい。

懸賞論文は形式に拘らず
研究成果の内容で評価

懸賞論文「日本医療経営実践賞」については、昨年は最優秀賞1作、優秀賞2作が選出されている。5回目となる今回もハイレベルな応募を期待したい。

第3回より「論文」という形式に限定せず、事例研究レポート等でも選考対象となっている。研究成果の内容が優れていれば形式を問わず評価することになっているため、「論文は書いて

たことがないから」といった理由で応募を迷っている方がいれば、ぜひ挑戦していただきたい。

なお、過去の受賞者による記念講演や報告書は協会ホームページ内の「研究助成アーカイブ」にて視聴可能だ。応募要項等の詳細については本協会ホームページに掲載している。

表 第6回(2023年度)指定課題

- | |
|----------------------------|
| ① 医療経営におけるDX |
| ② 医師、看護師等人材の確保対策 |
| ③ 人口減少社会における医療機関の経営戦略 |
| ④ 医療改革における医薬品企業、医薬品卸売企業の役割 |

「医療経営に関する研究助成」事業
選考委員会・委員長からの
メッセージ

尾形裕也氏(九州大学名誉教授)

2018年度よりスタートした「医療経営に関する研究助成」事業も、第6回を迎えるに至りました。1年遅れで募集を開始した懸賞論文「日本医療経営実践賞」は、一昨年、昨年と最優秀賞が連続して誕生するなど、年々レベルの高まりを印象づけられています。その一方で、コロナ禍による行動制限等の影響もあってか、指定課題研究については第1回に応募20件・採択10件を数えた以降、応募数の減少傾向が続いています。

今回は、4つの指定課題（表）を挙げていますが、①～③は今後の病院経営を直撃する喫緊の課題であり、④は全医療経営士のうち6割近くを占める医薬品製造および医薬品卸売企業に所属する方々に向けた応募喚起です。医療や医療機関の在り方が変われば、それを取り巻く周辺企業の役割も当然変わってくるはずですが、医療機関との連携を踏まえ、社会に対しどのような貢献を行うのか・できるのか、当事者として問われる部分です。

なかでも、②③における「人口減少社会」と「人材確保」は、需要と供給双方に関わる日本の経済社会全体における構造的な共通課題です。医療界・医療産業の中だけでなく、異業種や他産業との競合の中でどのような戦略や対策を講ずることができるかが問われます。そのためには、まず医療機関が優秀な人材を惹きつけることができるマグネットホスピタルとなることが必須の条件と言えます。

日々、現場での実務に追われている皆さんにとって、調査研究に取り組むことや論文を執筆することは大変な負担と思いますが、「研究助成」を一つの契機、チャンスととらえ、現場で得られた先鋭な問題意識に基づき、ぜひ、実践的なアウトプット、成果物にまとめていただきたいと思います。そして、そうした試みが、また、自身の成長や組織の成長、組織力の向上につながります。

以前、『理論と実践』誌(No.37)の巻頭言で、「ノブレス・オブリージュ(Noblesse oblige)」という言葉を紹介しました。フランス語で「ノブレス」は貴族、「オブリージュ」は(それに伴う)義務を表し、「高い身分には、それにふさわしい義務が伴う」というほどの意味で、医療に携わる人にとってこうした精神のありようは不可欠ではないかと思えます。ぜひ、ノブレス・オブリージュの精神で、医療経営に資する研究に挑戦してください。

第6回(2023年度)「医療経営に関する研究助成」案件募集

助成総額上限
1000万円
医療経営士の
挑戦を求む！

1 懸賞論文「日本医療経営実践賞」

【公募締切】5月15日(当日消印有効)

- 募集内容：医療経営に関する論文等でテーマは自由とする
※懸賞論文と指定課題研究の両方に応募することは可能だが、指定課題研究と同一テーマで応募することは不可
※研究成果については、論文のほか、事例研究レポート等を含め、形式を問わず内容の優れたものを選考する
- 対象者：医療経営士および医療経営に携わる個人・グループ
- 賞金額：優秀な論文を表彰し、最優秀賞には賞金100万円を授与
- 原稿字数：12,000字以上20,000字以内
※未発表論文に限る

2 指定課題研究

【公募締切】4月28日

- 募集内容：①医療経営におけるDX
②医師、看護師等人材の確保対策
③人口減少社会における医療機関の経営戦略
④医療改革における医薬品企業、医薬品卸売企業の役割
※①～④いずれか1つの課題を選択。同時応募は不可
- 対象者：医療経営士および医療経営に携わる個人・グループ
- 助成金額：1件当たり50万円～250万円を予定(件数未定)
- 研究期間：原則1年間(2023年7月1日～2024年6月30日)